

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立西陶器小学校
校長 柏原 秀和

中学校区におけるめざす子ども像
 ○将来をみすえ、自ら学習できる子 ○自分のよさを知り、人とつながり協働する子 ○ゆめの実現に向かって粘り強く取り組み、活力ある生活を送れる

令和7重点目標
 学校教育目標：「一人ひとりが達成感を味わい、笑顔と夢があふれる西陶器っ子」
 めざす子ども像：1 自分で考え実行力のある子ども 2 自分のよさを知り、人を認め、人とつながり協働する子ども 3 夢の実現に向けて挑戦する子ども
 組織上の重点目標：「子どもが安心と居場所を感じる学校づくり」～道徳を要とした児童理解と生徒指導対応力の向上～

<p>「確かな学び」の現状 昨年度実施した全国学力・学習状況調査の結果から、国語では「話すこと・聞くこと」、算数では「数と計算」領域といった基礎学力面において全国や大阪府の状況に比べると低い状況にあることから、今年度は基礎学力の定着を中心に据える。しかし、「話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」には全国や大阪府を上回っていることから、昨年度の研修テーマ「考え抜く児童の育成」に一定の成果があると判断できる。話し合い活動から得られる充実感を学力の定着に結びつけることができるように、基礎学力の定着を図っていきたい。</p>	<p>「豊かな心・健やかな体」の現状 昨年度、「特別な教科 道徳」を研究教科において全クラスで研究・公開授業を実施し、豊かな心の育成に取り組んできた。研究のまとめとして、本校の児童は「親切、思いやり」「よりよい学校生活、集団生活の充実」が長所として捉えることができた。また、全国学力・学習状況調査の結果からも「自分にはよいところがある」の項目が全国や大阪府より高い結果となっていることから、引き続き道徳の授業力向上と、学校全体のいいところみつけの取り組みを継続していく。体力面では全校体力・運動能力、運動習慣等調査の結果では、各種目の合計（体力合計点）が全国・堺市を上回っている。これらの体力を基盤にしてさらに体力向上する取り組みを体育委員会を中心としたイベントや、運動量を確保した授業をもってさらに伸ばしていきたい。</p>
---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	総合的な学力向上	考え抜く児童の育成	道徳科の研究授業と、人權の公開授業を各学年1本ずつ、専科の授業や支援学級の授業も含め、全職員が公開授業を実施し、授業力向上に努める。	年間公開授業12回以上	実践報告 自己評価	年度末	○	各学年の研究授業は計画通りに進んでいる。学年団で授業検討を進めている。	学年団で授業検討を行ったことで、全職員が自身の授業改善に向き合うことができた。 授業では86%の児童が自分の考えを書いたり伝えたりしていると回答しており、よく考え、しっかり話を聞いて勉強していると答えた児童は95%となった。算数の授業では、87%の児童が見通しをもって授業に参加することができている。次年度も児童の思考力向上につながるよう、授業研究を進めていく。 どの学年でも児童の実態に合わせたICTの活用を行っており、88%の児童がタブレットを使うことで勉強がしやすいと感じている。家庭学習は昨年度は自分で計画を立てて取り組んでいる児童が85%に満たなかったが、今年度は85%の児童が自分で計画を立てて取り組むことができおり、継続してこれからも取り組んでいきたい。
			考える時間や交流する時間を多く取り入れるなど、考え抜く力をつけることを意識した授業に取り組み、子どもの思考力向上に努める。	「見ア」自分の考えを書いたり、伝えたりしている。」肯定意見90%	アンケート	年度末	○	ICTは発表ノートやパワーポイントを使って、まとめる活動で活用したり、自分の考えを示すときに活用したりして、授業に取り入れている。低学年は発達段階に応じた活用をしている。	
			高学年専科指導(算数)を5～6年で系統的に実施し、児童が自分なりの考えを持てるようにする。	「見ア」算数の授業で見通しを立てながら、問題を解決しようとしている。」肯定意見80%	アンケート	年度末	○	家庭学習はする内容を自分で決めて取り組めるように声かけしたり、ノートをいくつか教室に掲示して参考にできるようにしたりしている。しかし、積極的に取り組む児童との差ができていく部分もある。	
	学びに向かう力・人間性の向上	ICT活用によって、新たな見方・考え方に気づき、自分の考えをより深める児童を育てる。	「見ア」児童用タブレットを使うことで、勉強がしやすくなる。」肯定意見80%	アンケート	年度末	○	どの学年でも児童の実態に合わせたICTの活用を行っており、88%の児童がタブレットを使うことで勉強がしやすいと感じている。家庭学習は昨年度は自分で計画を立てて取り組んでいる児童が85%に満たなかったが、今年度は85%の児童が自分で計画を立てて取り組むことができおり、継続してこれからも取り組んでいきたい。		
豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	道徳教育と生徒指導の充実	道徳教育・道徳の時間の充実を図り、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。	「見ア」人の気持ちを考えたり、人と助け合ったりしていきたいと思う。」肯定意見80%	アンケート	年度末	○	道徳性を養うために、「考え、語り合う児童の育成」をめざし、重点項目を中心に授業を進めている。	安心できる学校づくりを推進していくことは大切であり、その中で取り組んできた道徳科の研究についても、少しずつ成果が表れてきていると感じる。 現代社会では、スマートフォンを通じたいじめが広がり、問題が陰湿化している。学校として情報モラル教育を一層推進するとともに、保護者にもスマートフォン使用時の約束づくりなどに取り組んでいただくことで、また成長段階にある子どもたちには「自律」と「管理」の両側面からの支援が必要であると考えます。
			いいところみつけを通して、児童の自尊感情を高める。	「見ア」自分には良いところがあると思いますか。」肯定意見80%	アンケート	年度末	○	隔月のいいところみつけでは、放送で知らせることで自分や友だちのいいところを見つめ直している。	
			児童のいじめについての理解を深め、いじめを許さない態度を育む。またいじめ問題に対し迅速かつ組織的な対応をする日頃から児童の実態を全職員で共有する	「見ア」いじめは、どんな理由があってもいじめないことだと思おう。」肯定意見100%	アンケート	年度末	○	各学級で人を傷つけること、いじめなどは絶対にいけないという指導をおこなっている。いじめアンケートを毎月実施し早期発見できるようにしている。	
体力の向上	心身ともに健全な子どもの育成	早寝・早起き・朝ごはんなどの基本的な生活習慣の定着を図る。	早寝・早起き・朝ごはんなどの基本的な生活習慣の定着を図る。	「見ア」早寝・早起きをしている」「朝ごはんを食べて登校している。」肯定意見80%	アンケート	年度末	○	早寝・早起き・朝食の大切さについて、掲示物・ほけんだよりにて啓発。5月時点の肯定意見は「早寝・早起きをしている」72%、「朝ご飯を食べて登校している」93%	12月での肯定意見は「早寝・早起きをしている」67%、「朝ごはんを食べて登校している」91%と減少していた。早寝早起きで肯定意見80%を超えているのは1年生のみだったため、今年度とは別の働きかけが必要。朝ごはんは5年生以外80%を超えていたので全学年が80%を超えるよう来年度も取り組む。5月は88%で12月は86%だった。寒暖差の関係もあると思うが、目標の90%に達していないことと、2%下がったことが課題である。その課題に向けて今後取り組んでいきたい。3月に教員向けに研修を行い、体育授指・観点の共通理解を図る。
			体育の授業や体育行事の充実を図り、十分な運動量を確保する。	「見ア」体育の授業や休み時間などで体を動かすことが好き。」肯定意見90%	アンケート	年度末	○	みんなが体を動かすことが好きになるように体育委員会が中心となってシュートゲームや縄跳び検定などの活動を計画している。	
開かれた教育	期待・信頼	公開・評価・協働	学校ホームページ、校報等を活用し、教育活動の現状と成果の発信に努める。	学校ホームページにおいて、昨年度のアクセス数を上回る。	アクセス数	年度末	○	毎日学校教育活動をHPで更新し、校報やPTA実行委員会でも情報発信を行っている。	今年度は、地域の方々から学ぶ機会を多く設けることができた。今後も、園・保護者・地域を含め、校区について学ぶための交流を一層深めていってほしい。
			こ幼小の交流、小中一貫教育の推進	こ幼小中間で研究授業や参観授業の実施を行い効果的な交流の検証	自己評価 実践報告	年度末	○	交流公開実践等でこども園との交流を通じて幼小間のつながりを持ち、両職員とのつながりももった。	

<p>校長より(年度末) 令和6年度より2年間、組織の重点目標として「子どもが安心と居場所を感じる学校づくり～道徳を要とした児童理解と生徒指導対応力の向上～」を学校教育活動の中心に据えて取り組んできた。その結果、子どもたちの道徳的諸価値への理解が深まり、互いに考えを伝え合う姿が見られるようになるなど、学習面での成長が確認できた。また、生徒指導の面では、未然防止に向けた取り組みが進むとともに、問題発生時の迅速な初期対応ができるようになるなど、対応力の向上が図られた。これらの2年間で培った成果を次年度にも確実に引き継ぎ、子どもたちが安心して通うことのできる学校づくりをさらに推進していきたい。</p>	<p>学校関係者評価者から(年度末) 子どもや教職員一人ひとりの持ち味を生かせる学校であってほしい。そのためにも、時間外勤務の削減や教科担任制の推進によって教職員の負担を軽減し、笑顔あふれる穏やかな学校の姿をこれからも維持して欲しい。</p>
---	---